榊原真歩

はじまり

鎌倉には、 切り通し という物流・防衛のため に幕府によって建設された古道がある。

かつての目的を失ったその空間に一歩足を踏み 入れると、複雑な地形を利用し、受け入れること で創られてきた鎌倉という街の源流であるような 特別な風景に出会った。





-人と自然のおりあい

三浦半島の付け根に位置する鎌倉は、谷戸と呼ばれる入り組んだ山と 要塞として利用し、この地に根付いた。

人々は、周囲の山々や崖、海に対して少しずつ手を加え、そうしてできた 環境の中に取り込まれるようにして生きながらえてきた。 その痕跡は長い時間とともに積み重なり、今の鎌倉の街並みや文化と なって街の歴史を物語っている。



やぐら。岩を掘って作られたお墓。



谷におさまって密集する住宅たち。



和賀江島。石を集めて作った人工島。



山のひだにひっそり行む寺。

三浦半島の付け根に位置する鎌倉は、谷戸と呼ばれる入り組んだ山と 谷の地形が街をぐるりと囲うようなかたちをしている。平地が少なく、周囲と切り離された環境に目をつけた鎌倉幕府は、地形をそのまま

R-SUDALES (



谷戸のひだにかくれる風景

大きな自然と小さな人間

お寺へと続くみどりのトンネルには風が抜ける



仕宅が立ち並ぶ開始にひっそりとかむ神社



場内の責行きを切りとる門

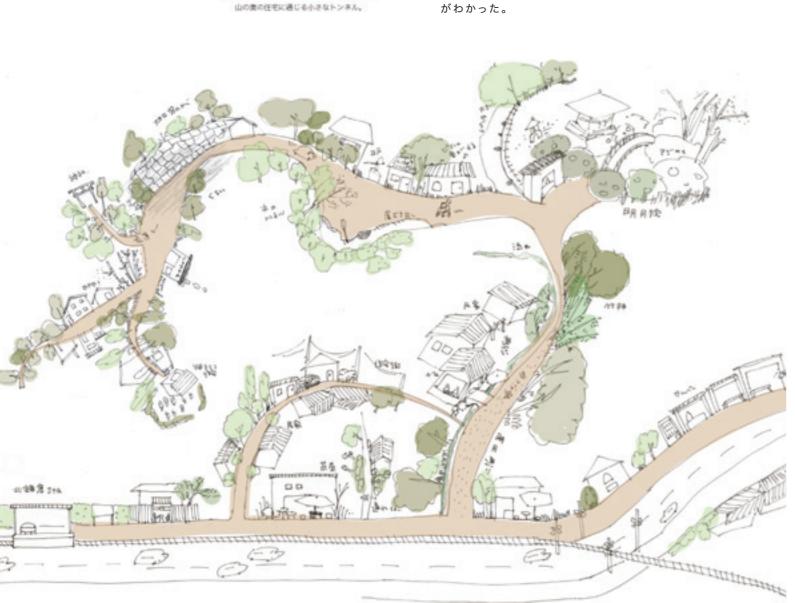
- 奥行きをもつ街の経験

横須賀線の開通に伴って、街に移住して来る 人々が増加し、谷に沿って立ち並ぶ住宅はそ の領域をどんどん広げていった。

大規模な山の開発を阻止する住民の活動に よって、山は本来の入り組んだかたちを維持 しながら、奥へ奥へと谷筋をのばしていった。

大通りから伸びる脇道に入っていくと、静かで、歩くたびに風景が少しずつ変わっていくような経験があった。

奥へと引き込まれるようにして進んでいくと、 道は枝分かれしながらだんだんと窄まって、 そのほとんどが行き止まりを持っていること がわかった。



-地理的要因による暮らしと観光の分断

平日でも観光にやってくる多くの 人々で賑わう街の中心部から一 歩外に出ると、山に囲まれた静 かで落ち着いた暮らしの領域が 広がっている。

しかし、山がつくる行き止まりに よって、住民と観光客は近しい距 離にありながらもお互いの存在 を日常的に感じられない。



-地形による行き止まりを乗り越える空間の手がかりとして、切り通しに着目する。

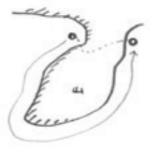


自然要塞の中に築かれた鎌倉は、街が栄えていくに 連れて外から物資を運んでくることが必要となった。 そこで、周囲をかこう山を通り抜けるために、切り通 しを作った。

山を短い距離で切り開き、離れた街とのつながりを 生み出した切り通しは、そこから攻め込んでくる敵を 撃ち殺す役割も持ち、街の構造を大きく変えた。



掘ったところには、時間が経つにつれ 自然が流れ込んでくる。



離れたところへワープすることによっ て、街との出会い方・体験が変化する。

はじめに作られてから約750年がたった 切り通しは、かつての機能を失って、山の 中にぽっかりと取り残されている。 何度も訪れるうちに感じたこと、またその 魅力をつくりだす要素を分析した。

> 奥から光が差し込むひとつながりの空間。 這としての方向性を持つ、やってきた誰もを受け入れる ようなおおらかな空間。





hall - section 1:900

谷の地形をそのまま利用した広場。 山に囲まれて暮らす人々や観光にやってきた人々が集まるところ。





gallery - section 1: 400

山を深く掘り込んだところ。奥に行くほど暗く、落ち着いた空間。





view - section 1:400

山の一番高いところから街を見下ろす。山の下のほうから風が吹き 上げてくる。



-山を超えた繋がりをつくる



目的(通り抜け)と行為が重なる空間には、地理的分断を超えて、多くの人が流れてゆく。流れは緩くて大きなコミュニティとなり、暮らしと観光をつなぐ、日常的な公共空間になる。

切り通しでの空間体験を 元に、地形との関係によっ て生まれる建築のかたち を考える。



accomodation - section 1:400

山肌に埋め込まれたボリューム。道は、完全に山の中に潜り込む。





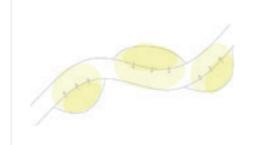




山の高低差を乗り越えるスロープ やスキップフロアで、ひとつなが りの空間をつくる。風や気配が流 れる。



建築の埋め込み方(山肌との距離) によって様々な質の空間をつくる。



道に沿って機能を配置する。道に 活動が溢れてくる。



library - section 1:400

急な斜面のところ。 地面と平行に掘り込んだ洞窟のような空間に包み込まれる。





山の窪んだところ。つづら折りのスローブでゆっくりと山を登っていく。

cafe - section 1:400



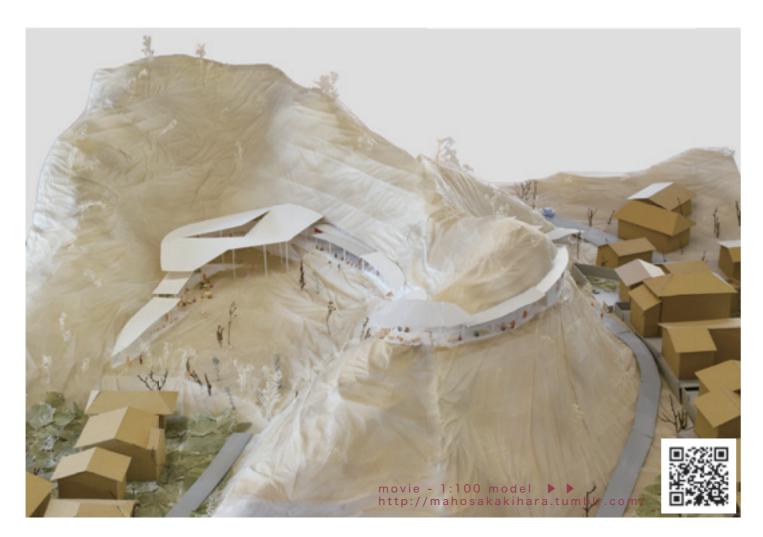
戦 争の遺 物である切り通しを、単に街の歴 史の象 徴としてそこに残しておくだけでなく、

それが現代にとってどんな意味を持ちうるか、どんな空間として表れるかを再定義することは、

これまでの歴史の上に生きる新たな意味を見出し、この場所で暮らすことの豊かさを紡いでゆく。







Comments from Classmates

切り通しの空間への興味と、そこで感じた魅力を大事にしていることが伝わってきて、それが建築にも現れていると思う。「山肌との距離」を操作す ることによって空間に多様さや豊かさがうまれていて、とても魅力的な場所になっていると思う。建築の純粋な面白さみたいなものを感じて、見てい てわくわくする!

まほちゃんが切り通しの自然の風景に惚れ込んでから、迷いながらもずーっと敷地に向き合っていたのを見ていたので、最後あの形に決めたのにはす ごい勇気があったんだろうなぁと思っています。鎌倉の強い歴史性をどう扱うか悩みながらも、いろんな形の建築を試しつつ、最後までやり遂げてい たのは尊敬します。め一っちゃ辛かった時期の長電話も今となっては懐かしい笑

1年の頃から誰よりも興味やものの見方が確立されていて、本当に尊敬できる人。卒業設計でも自分の興味から進めていき、途中で周りの人の卒制の

考え方やテーマとの乖離に悩む時期もあったように思うが、今回の最後みたいに、今後も周りとの差なんて気にせず突っ走っていってほしいと思うの が純粋な思いです。が、最低限やっといたほうがいいこと(今回だと図面とか。図面から見えてくるこの建築の楽しさ、豊かさも確実にあったはず…) はあると思うので、そこは今後頑張ってほしいです(笑)

講評会で模型を見て zoom 越しだったけれどとてもおおらかで、清々しい建築だなと思いました。鎌倉の山並みに対してささやかそうに見えて力強 く建築が建っていて、新しい切通しと言うにふさわしいと思います。

1月の頭に相談を聞いていたときは、真歩ちゃんは不安そうで辛そうだったけど、それを乗り越えて設計しきったことはすごいし、僕も見習って頑張 らないとと思えました。本当にお疲れさまでした。また僕も相談させてください。

勝部涼亮

まほちゃんはいい意味で建築に興味がなくて、好きな空間はちゃんと知ってる人なんだと思いました。

壁を立てたり、屋根をかけたり建築っぽくなる要素を使っていいのか疑い続けて…使わないことを選んだのがよかったんだろうなぁ。

それで出来るだけ自然のままの心地よい空間を目指した結果でてきたのが山を削った建築で

建築っぽい要素を使わなくても空間がつくれるってことを証明したって感じがします。

ずっと隣で作業してて、巨大な山の模型ができあがっていくのは見ていて楽しかったです。

寺西遥夏

前期の10.000㎡の頃から着眼点がいいなと思って聞いてました。

個人的に3年生の設計課題の頃は、設計をする段階で色々考えすぎてしまって、手が進まなくなってしまったり、最終的な提案と自分のやりたいこと に少し隔たりがあると感じていたんだけど、4年生の一年間を通して「切り通し」っていう着眼点は全くぶれておらず、どう建築にしていくかという ことを追求している気がして、とても良い卒業設計だなと思った。

最終的な模型やドローイングからまほちゃんが作りたい空間がとても想像できた。この建築を実際に作っていく過程やどのような材料を用いるかまで 突き詰めたらもっと良くなったと思う。

ドローイングがめっちゃ魅力的でとても好きです。

永長穂高